

第1回 市川市交通バリアフリー基本構想作成協議会 結果概要

開催日時 : 平成 15 年 1 月 16 日

開催場所 : 生涯学習センター 第二研修室

議題 : 1) 会長、副会長の選任について
2) 基本構想案について
(1) 市の基本方針について
(2) 重点整備地区(候補)の選定について

協議会資料 1) 交通バリアフリー基本構想作成協議会第1回資料

- ・ 本編
- ・ 福祉施設等配置図
- ・ 文化施設等配置図
- ・ 商業施設等配置図
- ・ 公共施設等配置図
- ・ 医療施設等配置図
- ・ レクリエーション施設等配置図

2) 参考資料1

3) 参考資料2

協議結果概要

協議会会長、副会長の選出後、基本構想の内容について協議された。

基本構想の内容については、市の基本方針について、事務局からの市域全体のバリアフリー化の考え方の説明が欠落しており、基本構想の中で位置づけられる重点整備地区と市域全体のバリアフリー化の考え方を整理し記述する必要があるとの意見があった。

また、重点整備地区(候補)の選定については、事務局から

- ・ 駅周辺の公共公益施設等の集積度合
- ・ 各駅の乗降客数
- ・ 地区内高齢者の居住分布状況

の3要素を指標として

- 1) JR 本八幡駅地区
- 2) JR 市川駅地区
- 3) JR 市川大野駅地区
- 4) 営団行徳駅地区
- 5) 営団南行徳駅地区

の5地区を候補案として選定した旨説明した。

委員からは、

駅の乗降客数について最新データへ更新し検討すること

同乗降客数の最近の年変化率も提示し検討して欲しい

との意見があり、再検討し次回提示することとなった。

また、その後、高齢者、身体障害者等の市民委員より、現状の駅、道路等の施設のバリアフリー等に対する市民サイドからみた問題点や課題、要望等を述べてもらい、各関連事業者委員に聞いていただき質疑に入った。

また、バリアフリーに対する既存の市民意見をまとめた資料、事務局案の重点整備地区(候補)の現況をまとめた資料を各委員に配布し、第2回協議会に向けて関連事業者との個別協議を行ない重点整備地区及び特定事業計画の検討をお願いして第1回協議会を終えた。

議事録概要

1. 会長、副会長の選出について

仮議長: 推薦に対し、賛成多数ということで、会長、副会長を推薦のとおりお願いしたいと思います。

2. 基本構想案について

「はじめに」について

会長: ユニバーサルデザインに加え、心のバリアフリーについて加えていただきたい。「高齢者、障害者」に限定された表現ではなく、「等」としていただきたい。「等」には妊産婦や乳児を連れた人々なども含まれる。「物理的障害を除く」ことに重点が置かれてしまっている。

文章表現について

委員: アンケートのろう者を適切に表現する。

委員: データの出典元ははっきりさせ、最新の情報とする。

委員: 駅の乗降客数については、鉄道事業者に確認し、正確な数字に改める必要がある。

基本方針について

・市全域へのバリアフリー化

委員: 重点整備地区だけでなく、市全域を考える必要がある。

会長: 市域全域を考える必要があるのはもちろんであるが、この基本構想の中で各論として優先順位を付けて優先度の高いところから実施していく地区ということである。

事務局: 基本方針の中で検討し示していきたい。

重点整備地区(候補)の選定について

・高齢化率の指標

委員: 選定の指標に地区別の高齢化率があげられているが、今後、全体的に高齢化率が上がると思われますので、必要ないのでは？

委員: 地域の高齢者が必ずしも駅を利用しているとは限りません。地域の高齢者を重点整備地区選定の対象とすることはあまり意味がないのでは？

委員: ひとにやさしいということが根本だと思いますので、高齢者も考慮すべきと考えます。地域の高齢化率も最新のデータとして上げておくべきと考える。

・鉄道利用者の増加率

委員: 最近、北総沿線も人口が増えていますので、乗降客数の増加率も考慮いただきたい。

・重点整備地区の選定

会長: 重点整備地区の選定は第2回協議会で決定する。

事業者についての意見・要望

・鉄道駅

委員: JR市川駅と本八幡駅については車いす用のトイレ、エレベーター、下りエスカレーターを要望している。駅にはオストメイト対応のトイレが必要である。携帯電話が心臓のペースメーカーに影響を与えることが言われていたため、乗り物の中でいい方法でPRしていただきたい。

委員: JR市川駅、本八幡駅の改札から道路までスロープにしたら便利なのでは。ホームへ行く階段もゆっくりとしたスロープにすればいい。エスカレーターを若い元気なものが急いで駆け上がるが、急ぐのであれば階段を上ればいい。高齢者などの利用を考えるとすれば、一人用のエスカレーターにすれば、上りも下りも付くのではないか。本八幡駅も階段の段数を統一した方がいい。

委員: 西船橋にもエレベーターやエスカレーターが必要。また、降りるところにエレベーターが必要。市川大野駅では4段ほどの段差があるが、真ん中に設置すればよいのでは。

委員: JRの市川駅や本八幡駅を利用するとき、シャポールのエレベーターを使っているが8時以降では閉まり、駅員も少なくなる。8時から12時までには帰ってこないようにといわれたこともある。駅の構内への道路からのスロープが必要である。電動の車いすだと50kgあるので、6人が介助しなければならない。駅員の中にははっきりと言葉で断る方もいる。駅員の対応も検討いただきたい。

委員: JRの駅、営団地下鉄など情報の案内、文字放送が少ない。また、緑の窓口や改札に筆談でやりとりするようなものを置いて欲しい。

・道路

委員: 道路については3m弱の路地の所まで、でこぼこしており狭いところが多いことが問題である。歩道の段差を無くして欲しい。

委員: 市川大野駅周辺で、船橋松戸線には歩道がない。危険で、バリアフリー以前の問題。至急整備いただきたい。

委員: 道路は全体的に狭い。知人が狭い歩道上を自転車で通行している際、横転して車にひかれる事故があった。ろう者は車の音が聞こえないので、できるだけ歩道を広くして欲しい。このことについては、ろう者だけでなく、ベビーカーを使用する人などにとっても重要。

・信号機

委員: 信号には、見てわかるようにタイマー付きのものを付けて欲しい。年輩の方なども点滅してから急いで渡ることができない。時間を知らせるものがあるが付けて欲しい。

・心のバリアフリー

委員: 物づくりの考え方、目線を変えなければならない。

委員: エレベーターも若い人が先に乗って閉めてしまうことがある。

委員: 放置自転車、自転車の走行マナーなど考える必要がある。

会長: 以上の市民委員から出された意見の中には、一見して障害者とはわからない(オストメイト使用者等)人々がいるという指摘があった。それに対応するためには心のバリアフリーということが市民だけでなく、駅員等にも必要。

その他

・次回協議会日程

会長: 次回協議会は2月26日とする。

事務局: 事業者の方には依頼文をお渡しするので、次回はそれをもとに協議を行いたい。